

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

研究の拒否	患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために試料・情報が使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。
研究課題名	高悪性度肺神経内分泌がんにおける、運命制御転写因子の臨床病理学的特徴と治療反応性・予後との関連の後向き検討
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	朝田 和博
研究期間	2021年2月～2025年10月
対象者	1990年から2020年までの間に、当院において高悪性度肺神経内分泌がんと診断された患者さんを対象にしています。
当該研究の意義・目的	<p>肺がんは、癌死亡の最も多い原因であり、高悪性度肺神経内分泌がんの代表である小細胞がんは最も予後不良な肺がんとして知られています。最近、小細胞肺がんにおいて「運命制御転写因子」と呼ばれるタンパク質の発現状況による分類が提唱され、今後の個別化医療と治療成績の向上につながる可能性が期待されています。しかし、運命制御転写因子の役割や、その発現の有無による治療反応性や予後への影響は明らかではありません。</p> <p>本研究は、高悪性度肺神経内分泌がんの採取済み検体を用い、運命制御転写因子とそれに付随する重要なタンパク質の発現状況を明らかにし、臨床情報と照らし合わせて解析を行う後ろ向き研究です。</p> <p>本研究により、高悪性度肺神経内分泌がんの病態の理解を深めることを目的とします。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	<p>①対象となる患者さんの診療録から次の情報を調査します。</p> <ul style="list-style-type: none">・背景因子（年齢、性別、診断日など）、・臨床データ（病理検査結果など）・治療（手術、抗がん剤など）・転帰（再発の有無など） <p>②採取済み検体で、ASCL1、NEUROD1、POU2F3、YAP1、ATOH1、およびそれに関連したタンパク質の発現を免疫組織染色法で評価します</p> <p>③各患者さんに識別番号を割り付けて匿名化を行います。収集した情報を記載した調査票にはこの識別番号を用います。患者さんとこの番号を結び付ける対応表は、当院内で厳重に保管し、</p>

	<p>他施設へは提供しません。</p> <p>④共同研究機関へ提供します。提供先と提供方法は以下の通りです。</p> <p><提供先> 浜松医科大学 内科学第二講座</p> <p><提供方法> <input type="checkbox"/>直接提供 <input checked="" type="checkbox"/>郵送 <input checked="" type="checkbox"/>電子的配信</p> <p><input type="checkbox"/>その他 ()</p>
個人情報の開示に係る手続き	<p>個人情報開示に係る手続きは、下記の間合せ先にご相談ください。</p>
資料の閲覧について	<p>あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。</p>
研究代表施設・代表者	<p>浜松医科大学 内科学第二講座 教授 須田 隆文</p>
研究組織	<p>浜松医科大学 腫瘍病理学講座 教授 梶村春彦</p> <p>聖隷三方原病院 病理診断科 小川 博</p> <p>磐田市立総合病院 病理診断科 大西 一平</p> <p>聖隷浜松病院 病理診断科 大月 寛郎</p> <p>藤枝市立総合病院 呼吸器内科 松浦 駿</p>
間合せ先	<p>◆その他、この研究に関するお問合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。</p> <p>静岡県立総合病院 呼吸器内科 朝田 和博</p> <p>代表 054-247-6111</p>